

2021年 年頭所感

一般社団法人 不動産流通経営協会
理事長 山代 裕彦

2021年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

わが国の経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、依然として厳しい状況にあり、昨年11月以降の再拡大の状況のもと、経済の下押し圧力が増えています。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ社会経済活動のレベルが引き上げられるなかで、政策効果や海外経済の改善等により持ち直しの動きが続くことが期待されますが、一方で長引くコロナ禍が内外経済を下振れさせるリスクにも十分注意を払う必要があります。

既存住宅流通市場においては、緊急事態宣言に伴う外出自粛や営業休止の影響により、住宅仲介の取引は4・5月に大きく減少しましたが、足元では前年水準まで回復してきています。しかしながら、コロナ禍が市場に及ぼす影響は予測し難く、今後も、予断を許さない状況が暫く続くものと思われま

す。当協会は、昨年、設立50周年の節目の年を迎えたことを機に、不動産流通業が目指すべき市場の姿について考え、市場の発展に向けた具体的な提案を『FRK提言2020』として取り纏めました。提言では、次の50年に向けて、「顧客志向」を前面に掲げ、不動産流通業は「信頼産業」であることの原点に立ち戻って、目指すべき市場の姿を、第一に、「安心・安全な取引が実現する市場」、第二に「多様なニーズが充足される厚みのある市場」とし、それを実現させるための具体的方策を整理しました。本年は、次の50年に向かって前進していくスタートの年として計画を着実に実行に移していく所存です。

内需の牽引役である不動産市場において、既存住宅流通市場に期待される役割が益々増大するなか、本年も、会員相互の結束のもと、不動産流通業界のさらなる発展に向けて邁進してまいります。